



矢野 邦夫 先生

浜松医療センター

院長補佐 兼 感染症内科長 兼 臨床研修管理室長 兼 衛生管理室長

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター(2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更)。「96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。「97年 感染症内科長/衛生管理室長に就任。2011年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索 Click!

株式会社メディコン

## COVID-19で入院した妊婦

妊婦はCOVID-19に罹患すると重症化するリスクが高くなる可能性があるものの、現在までのデータは限られている。CDCがCOVID-19で入院した妊婦の特徴および母体と出産の転帰について報告しているので、そのポイントを抜粋して紹介する(図1)(1)。



COVID-NET (COVID-19-Associated Hospitalization Surveillance Network) はSARS-CoV-2感染が検査で確認された妊婦の入院に関するデータを収集している。2020年3月1日から8月22日までの間に、COVID-NETは、15~49歳の入院中の7,895人の女性がCOVID-19であると特定した。そして、2,318名(29.4%)のカルテのレビューが完了した。妊娠についての情報のある女性2,255人(97.3%)のうち、598人(26.5%)が妊娠しており、年齢の中央値は29歳であった。

### ■ 入院した時期と理由について

妊娠三半期が判明しているCOVID-19の596人の妊婦のうち、妊娠第1三半期、第2三半期、第3三半期に入院したのは、それぞれ14人(2.3%)、61人(10.2%)、521人(87.4%)であった。

入院の理由は324人の妊婦で報告されている。242人(74.7%)が産科適応症(分娩と出産を含む)で入院し、61人(18.8%)がCOVID-19関連疾患で入院し、21人(6.5%)が他の理由で入院した。妊娠第1三半期または第2三半期に入院した妊婦の最も一般的な理由は、COVID-19関連疾患(56.8%)であり、妊娠第3三半期での入院の理由は産科的適応(81.9%)であった。

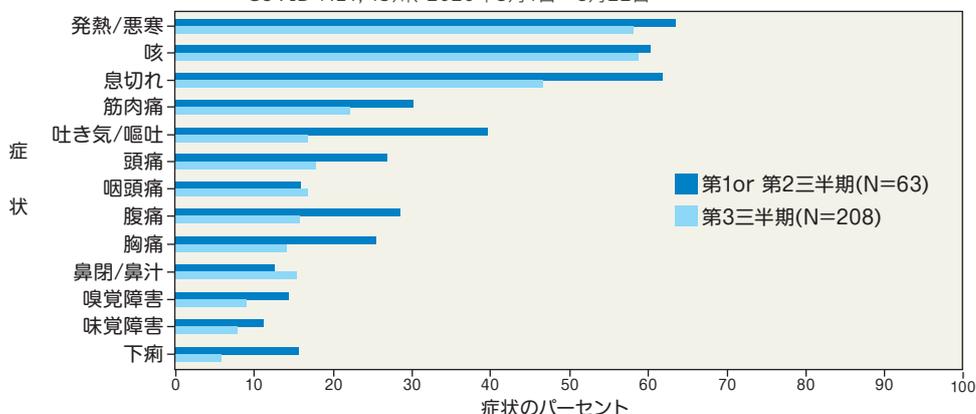
COVID-19で入院した妊婦のうち、20.6%に少なくとも1つの基礎疾患があり、喘息(8.2%)と高血圧(4.3%)が最も多かった。

## ■ 入院時の症状と重症化について

COVID-19の妊婦で入院時に症状がみられたのは272人(45.5%)であり、326人(54.5%)が無症状であった。第1三半期または第2三半期に入院した女性は、第3三半期に入院した女性(39.9%)よりも症状があることが多かった(84.0%)。最も多く報告された症状は、発熱または悪寒(59.6%)および咳(59.2%)であった(図2)。

症状のある入院妊婦272人のうち、44人(16.2%)がICUに入室し、23人(8.5%)が侵襲的人工呼吸を必要とした。症状のある妊婦の2人(0.7%)が死亡した。無症状の妊婦がICUに入院したり、侵襲的な人工呼吸を必要としたり、死亡したりすることはなかった。

図2 妊娠三半期別の有症状のCOVID-19の入院妊婦における入院時の症状  
— COVID-NET, 13州, 2020年3月1日~8月22日



COVID-NET = COVID-19-Associated Hospitalization Surveillance Network.  
COVID-NETによって、入院時に少なくとも1つの症状を伴うCOVID-19の妊婦272人が確認された

## ■ 妊娠転帰について

COVID-19に罹患した458人の妊婦(76.6%)が妊娠を完了しており、そのうち448人(97.8%)が生児出産、10人(2.2%)が妊娠損失であった。

COVID-19で入院した症状のある妊婦および無症状の妊婦の両方で流産が発生した。流産は妊娠20週未満で4件(妊娠完了数の0.9%)、妊娠20週以上で5件(1.1%)、妊娠期間が不明が1件(0.2%)であった。

出産時に在胎週数が判明している445件の妊娠のうち、87.4%は正期産(37週以上の妊娠)であり、12.6%は早産(<37週)であった。この早産の割合(12.6%)は、2018年に一般的な米国の妊婦で観察された割合(10.0%)よりも高かった。そして、症状のある妊婦の方が無症状の妊婦よりも約3倍の頻度で早産が発生した(23.1% vs 8.0%)。2人の新生児が入院中に死亡したが、どちらも侵襲的な人工呼吸を必要とした妊婦から生まれている。

## ■ 考察

この研究では、妊婦は非妊婦と比較して、COVID-19関連の入院率が非常に高いことが示された。また、COVID-19で入院した妊婦において、重症化と有害な妊娠転帰が観察された。このような調査結果は、妊婦におけるCOVID-19の予防と特定の重要性を強調している。

COVID-19の妊婦の半数以上が無症状であった。従って、症状の有無に基づく検査方針は、妊娠中に多くのSARS-CoV-2感染を見逃す可能性がある。入院中の妊婦のCOVID-19を早期に特定すれば、医療従事者が適切な个人防护具を着用し、面会者を患者の健康とケアに不可欠な人に制限することができる。

妊婦は、COVID-19(疑いを含む)に罹患した人との濃厚接触を避け、非世帯員から6フィート(約1.8m)の距離を保ち、一般的なCOVID-19予防対策(マスクの着用や手指衛生など)を実施する必要がある。また、早産の新生児はCOVID-19が重症化するリスクが高くなる可能性があるため、感染の可能性を最小限に抑えるために、保護者にはマスクの着用や手指衛生の実施を促す。

CDCは「COVID-19の母親から生まれた新生児を検査する」「COVID-19の母親とその新生児を他の入院中の母親や新生児から隔離する」「SARS-CoV-2に曝露した可能性のある新生児をケアする人は感染対策を実施する」を推奨している。

[文献]

- (1) Delahoy MJ, et al. Characteristics and maternal and birth outcomes of hospitalized pregnant women with laboratory-confirmed COVID-19 — COVID-NET, 13 States, March 1–August 22, 2020  
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/pdfs/mm6938e1-H.pdf>

こちらも公開しています。

メディコン CDCガイドライン  検索

製造販売業者

株式会社メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎0120-036-541

[crbard.jp](http://crbard.jp)

